

土木構造物荷重指針連合小委員会 第3回指針編集会議 議事録(案)

○日 時：2006年9月21日(木)15:00~18:00

○場 所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス コラーニングハウスII C506教室

○出席者：古田委員長、白木副委員長、本城副委員長、佐藤幹事長、秋山幹事、梶田委員、香月幹事、勝地幹事、川谷委員、北原幹事、金委員、澤田幹事、下村幹事、鈴木幹事、戸田幹事

○議事： 1) 前回議事録確認
2) 発題と討議
・ 指針原稿案についての討議

○配布資料： 3-0) 作用指針原稿案(第編一般論及び付録,第編各論)
3-1) 第2回編集会議 議事録(案)
3-2) 作用指針 進捗状況の確認
3-3) 第編一般論及び付録(資料3-0と同資料)
3-4) 第編3章 走行作用
3-5) 第編4章 風作用(資料3-0と同資料)
3-6) 第編5章 地震作用(資料3-0と同資料)
3-7) 第編10章 衝撃作用(資料3-0と同資料)
3-8) 第編11章 環境作用
3-9) 土木学会平成18年度全国大会資料 アジア地域における設計基準の調和に向けて

○主な討議 (発言者、敬称略)

1. 前回議事録の確認

・ 佐藤幹事長により前回議事録の確認がなされた。

2. 指針原稿案についての討議

第編一般論 について

・ 修正個所の明示(下線付き)を削除する。

第編付録 について

各付録は、執筆者が修正した時点及びクロスチェック終了時に随時ホームページへの掲

載を更新し進捗状況がわかるようにする。

- ・ 「A- .1 荷重のばらつきや不確実性と設計用荷重」
タイトルの変更，フォーマット修正等の見直しを行う。修正原稿はクロスチェック担当の白木副委員長，佐藤幹事長に送付する。
- ・ 「A- .2 統計的手法による作用モデルの構築」
「6.1」の記述を追加する。
- ・ 「A- .3 偶発作用」
最近の動向として極大地震の確率的な取り扱いなど，これまでの指摘事項を踏まえた原稿の修正とクロスチェックを実施する。
- ・ 「A- .4 作用効果の組み合わせ」
4.1 節に信頼性理論に基づく作用効果の組み合わせ 4.2 節に前回会議で指摘のあった性質の異なる作用の力学的組み合わせについて記述する。
- ・ 「A- .5 国際設計指針・基準等における荷重・作用の現状」
土木学会資料（資料 3-9 p.24-25）を元に原稿を作成する。
- ・ 「A- .6 各作用のリンク先，データベース等」
各作用の執筆担当者を中心に情報提供をお願いし，とりまとめを行う。
- ・ 「A- .7 性能設計における作用・環境的影響指針 補足」
作用指針「まえがき」と内容を調整の上，原稿の修正を行う。

第 編 1 章 基本方針 について

- ・ 方針(1)～(3)の部分をハコ書き（[REQ]付）とする。

第 編 2 章 固定作用 について

- ・ 自重と積載作用を取り扱う（実情に即して設定することとする）。また，静水圧はここでは取り扱わない。
- ・ 表 2.1（単位体積重量）は削除する。

第 編 3 章 走行作用 について

- ・ 資料 3-4 走行作用原稿案について，川谷委員より説明がなされた。
- ・ 行政基準に配慮したものであるが，設計者が現状と将来の予測に基づいて設計を行うという本作用指針本来のスタンス（理想）は「3.1 一般」のハコ書き中に明示したほうがよい。（理想と別の実情は解説に記述すればよい。）（澤田，香月）
- ・ 「3.1 一般」(5)は，[REC]（本指針は，…設計用走行作用の検討に適用することが望ましい）とする。（本城）
- ・ 「3.1 一般」の(1)～(3)をまとめて簡潔な文章とする。「疲労限界状態」という用語は

- 見直し，疲労による影響を考慮することを記述する。（鈴木，古田ほか）
- ・ 作用因子として，歩行者に関する記述は分ける。

第 編 4 章 風作用 について

- ・ 資料 3-5 風作用原稿案について，勝地幹事より説明がなされた。
- ・ 「4.3 作用」ハコ書きの(1)は[REQ]とする。(3)は[REC]or[POS]を文章と一致するよう修正する。（古田，本城）

第 編 5 章 地震作用 について

- ・ クロスチェック担当者（北原幹事／鈴木幹事）から澤田幹事にコメント，必要に応じて原稿修正を行う。

第 編 6 章 雪作用 について

- ・ 千葉大学・高橋先生にクロスチェックをお願いした。道路上等の管理がされている雪に関して記述が限定されている印象との指摘があったが，齋藤委員で修正，対応を検討する。

第 編 7 章 温度作用 について

- ・ 前回会議の指摘に基づき修正原稿を作成する。

第 編 8 章 波浪及び流体に関する作用 について

- ・ 本文ハコ書きの分量（やや多い）や文章の体裁について，本城副委員長にてクロスチェックを実施する。

第 編 9 章 地盤作用 / 10 章 衝撃作用 について

- ・ 地盤作用及び衝撃作用については，クロスチェックまで完了している。
- ・ 衝撃作用の付録として，爆発作用を追加する予定である。

第 編 11 章 環境作用 について

- ・ 資料 3-8 環境作用原稿案について、下村幹事より説明がなされた。今後，解説や付録（情報，データ）を充実させる。
- ・ 塩害の作用因子として，飛来塩分量と表面塩分量が同義に記述されているが，ハコ書き内は飛来塩分量とし，それを調査する方法として表面塩化物の調査があることを解説に記述するほうがよい。（澤田，秋山）
- ・ クロスチェック担当は秋山幹事と澤田幹事とする。
- ・ 「その他構造物を劣化させる作用」として，コンクリートの乾燥・収縮について記述で

きるかどうか検討する。(作用因子は温度,湿度?)

第 編 12 章 降雨作用 について

- ・ 作用因子の節を追加する。

3 . その他

- ・ 構造工学委員会で設置される荷重に関する示方書作成委員会について,古田委員長,川谷委員より説明がなされた。

次回開催予定

第 4 回編集委員会 11月10日(金) 13:00~16:00

鹿島建設 KIビル 2F ラウンジ

以上